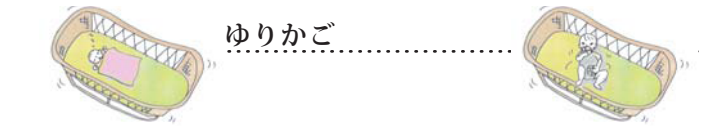
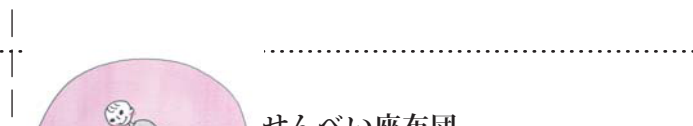


娘の成長と暮らしの変遷

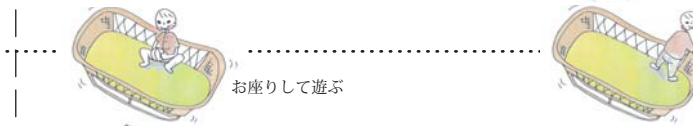
0カ月 1カ月 2カ月 3カ月 4カ月 5カ月 6カ月 7カ月 8カ月 9カ月 10カ月 11カ月 1歳 1歳 1カ月 1歳 2カ月 1歳 3カ月 1歳 4カ月 1歳 5カ月 …



大和田 (パパ) が赤ちゃんの時に使っていたゆりかごを継承
明祥ビルのオーナーが 30 年以上前にプレゼントしたもの



寝返りができそうになると少し広いスペースでゴロゴロ



寝返りが得意になり、床でゴロゴロ転がっていくので YAE HOUSE 1 を設計・施工



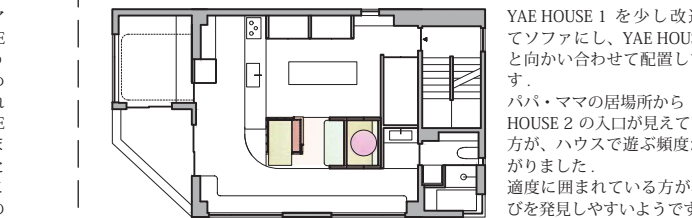
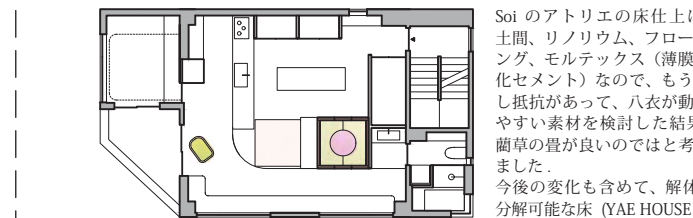
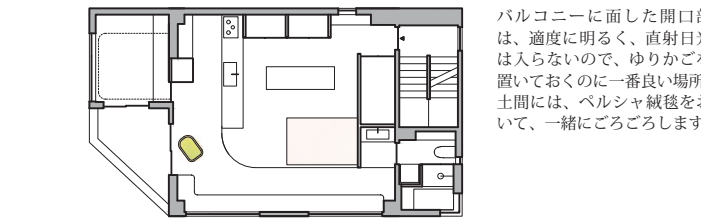
壁の高さがつかまり立ちにぴったり！木部分を柿渋で染める



鏡が大好きな娘のために鏡を設置
ゴロゴロしたり遊んだりしながら自分の姿をチェック



少しずつ喋りだし集中して様々な遊びを開発していくのでそれを受け入れる器としての YAE HOUSE 2 を設計・施工



バルコニーに面した開口部は、適度に明るく、直射日光は入らないので、ゆりかごを置いておくのに一番良い場所。土間には、ペルシャ絨毯を置いて、一緒にごろごろします。

ペルシャ絨毯の上に直径 900 mm のせいべい座布団を置いて、八衣のゴロゴロスペースを作りました。ゆりかごから定期的に広いスペースに移動して、動きを観察します。

Soi のアトリエの床仕上は、土間、リノリウム、フローリング、モルテックス (薄膜強化セメント) なので、もう少し抵抗があって、八衣が動きやすい素材を検討した結果、藁草の畳が良いのではと考えました。今後の変化も含めて、解体・分解可能な床 (YAE HOUSE 1) を設置する事になりました。

動きが活弁になった八衣には、ゆりかごは、危険になってきたので片付けました。パパ・ママが日常的にいるリノリウムの床から、YAE HOUSE 1 にアクセス出来る様に、真ん中の壁面パネルを外しています。ハイハイで、縦横無尽に家の中を動き回ります。

八衣からは、常にパパ・ママが見えるようなつくりの YAE HOUSE 1 は安心ですが、もう少し集中して遊びに打ち込めるように、壁が多く、囲まれているような空間 (YAE HOUSE 2) を作ろうと考えました。建築を通して、家族とコミュニケーションをとることの実験です。計画中の HOUSE M&L のスタディも兼ねています。

YAE HOUSE 1 を少し改造してソファにし、YAE HOUSE 2 と向かい合わせて配置しています。パパ・ママの居場所から YAE HOUSE 2 の入口が見えていた方が、ハウスで遊ぶ頻度が上がりました。適度に囲まれている方が、遊びを発見しやすいようです。